

## 第38回リバーカンファレンス

日時 平成26年3月1日(土)  
午前9時  
会場 新潟ユニゾンプラザ 4F  
大会議室

### I. 一般演題

#### 1 C型慢性肝炎に対する第一世代, 第二世代 direct acting anti-viral agent (DAA) による早期ウイルス学減衰の比較検討

渡邊 雄介・石川 達・阿部 聡司  
井上 良介・菅野 智之・岩永 明人  
関 慶一・本間 照・吉田 俊明

済生会新潟第二病院消化器内科

#### 2 喉頭癌化学療法直後に高度肝障害をきたし、その後ウイルス自然排除がみられたC型慢性肝炎の1例

和栗 暢生・小川 雅裕・荒生 祥尚  
小川 光平・倉岡 直亮・五十嵐俊三  
佐藤 宗広・相場 恒男・米山 靖  
古川 浩一・杉村 一仁・五十嵐健太郎

新潟市民病院消化器内科

【緒言】HCVの慢性持続感染例でのウイルス自然排除は年率0.2%と稀であり、またその自然排除に関わる要因はいまだ明らかでない。今回、喉頭癌で化学療法を施行されたC型慢性肝炎症例が、重度の薬剤性肝炎の後にHCVの自然排除がみられたのでここに報告する。

症例は60歳代, 男性。C型慢性肝炎で近医に通院中, 嗔声にて喉頭癌を指摘され当院耳鼻科にて手術および術後放射線化学療法(5-FU, CDDP)を施行された。化学療法後第7病日に肝機能障害(max ALT 914 IU/l) および黄疸が出現し, 当科に薬剤性肝障害の疑いでコンサルトされた。肝生

検では, submassive hepatic necrosisの所見であったが, 保存的に軽快した。退院後経過中にHCV-RNAを検査したところ陰性(入院時には6.9 Log IU/mL)であり, その後は反復検査にても陰性を持続し, ウイルス学的治癒に至った。

【考察】近医経過観察中に改善傾向すらなかった本例が無治療自然経過でウイルス排除に至ったことには重症薬剤性肝障害が関与したことは間違いない。重症肝障害はHCVに対する特異的免疫反応ではないため, HCV排除のメカニズムは明らかではない。本例は思いがけず治癒に至ったため, ウイルス排除に関与するといわれている各種因子の検討は十分行われていない。今後同様の症例の蓄積が待たれる。

#### 3 C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法に合併した自己免疫性疾患についての検討

小林 由夏・杉谷 想一・品川 陽子  
上野 亜矢・藤原 真一・大関 康志  
飯利 孝雄

立川総合病院消化器センター

【はじめに】C型慢性肝炎に対するインターフェロン(IFN)治療は, 広く使われているが, 自己免疫でも有用なサイトカインであるため副作用の一つとして自己免疫現象の誘発や増悪があげられる。

【目的】当院で2000年1月~2013年10月までにIFN治療を導入したC型慢性肝炎症例に合併した自己免疫性疾患について検討した。

【結果】当院で治療したのべ160例のうち効果判定が可能であった例は133件(男性/女性57/76, 平均58歳, serogroup I/II 82/51, 初回治療87例)であり, SVRは73例(54.9%)であった。この内のべ5件(3.1%)の自己免疫性疾患合併を認めた。

【症例1】55歳, 女性。I型高ウイルス量に対して初回IFN Alfacon-1を導入した。16週目から血糖コントロールが不良となり, 抗GAD抗体が検出され1型糖尿病と診断, インシュリン治療の